

本質的な問い 全ての人々が安全・安心で豊かに生きていけるようにするために、地球に住む一員として、自分はどう生きていきたいか。

単元名 作る・食べる・生きていく ～ Five star project ～

児童生徒の実態

- ・教科・領域等で学習した内容や方法を現実の課題に対して活用しようとすることができる。(肯定的評価 95%)
- ・自分の考えを積極的に伝えたり、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫することができる。(肯定的評価 76%)
- ・身近な問題に対して、自分ができることを考えようとするすることができる。(肯定的評価 95%)
- ・総合的な学習を通して、自らの生き方について考えたり、見直したりする。(肯定的評価 84%)

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・学習した内容や方法を現実の課題や新たに生じた課題等の解決に駆使することができる。(知識・技能)
- ・複数の事柄や資料などを関連付け、整理したり再構成したりして、適切に表現することができる。(論理的思考力・判断力・表現力)
- ・課題解決の過程において、対象に対して積極的に働きかけながら、協働したり工夫したりして解決し、学びの価値を考えることができる。(主体性・積極性)

単元を貫く問い 食を守り、生きるため、自分たちに何ができるのだろうか。

【探究課題 食をめぐる問題と自分たちの暮らし】

【第3次】（20時間）

課題 生きていこう～食料の未来を考えよう～自分たちの未来は今自分たちで創る

個別の問い

- ・家庭や地域の食品ロスの現状はどうなっているのだろうか。
- ・食料を安定的に得ることと持続可能な社会の実現には、何が大切だろうか。
- ・2030年の社会も安定的に食料を得ることができるように、現代を生きる自分たちに何ができるだろうか。

保護者

SDGs

(しかけ) 社会科で食料自給率について考え、更に国語科で食品ロスについて考えて、意見文を作成する活動と関連付け、飽食の時代を生きる自分たちが、未来に向け、よりよい社会を築いていくことの重要性に気付かせる。

【第2次】（20時間）

課題 食べよう～米を味わおう～伝えたい、一粒の命の重み

個別の問い

- ・収穫した米は、どのように精米し、炊飯すればよいのだろうか。
- ・どれほどのご飯が処分されているのだろう。
- ・なぜ日本人は米を食べるようになり、米を食べなくなったのか。
- ・明立小の残食量はどれほどだろうか。
- ・食のありがたさを伝えるにはどのように表現すればよいだろうか。

地域の方

栄養教諭

学習発表会・保護者

給食室の先生

残食の様子

(しかけ) 給食室へ運ばれる残食に着目させ、苦勞して生産された食料が廃棄されていることに気付かせる。実際に調理し、味わうことで、自分たちの口に入るまで、多くの人の苦勞があることに気付かせる。

JA バケツ稲

見直しポイント

【第1次】（15時間）

課題 作ろう！
～米作りに挑戦～初めて知った苦勞と喜び

個別の問い

- ・米はどのように作られるのだろうか。
- ・米作りには、どのような苦勞があるのだろうか。
- ・米作りをはじめとした農業にはどのような課題があるのだろうか。

(しかけ) 第4学年で防災について学習し、命を守る行動について考えた児童の学びをさらに発展させ、命を守り、生きていくためには、「食べる」ことが重要であることに気付かせる。

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
 - ・解決の道筋がすぐにはわからない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
 - ・活動をこなすだけになっていないか。
 - ・児童生徒から問いを生み出すしかけがあるか。
 - ・学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
 - ・第1次だけで構成していないか。
 - ・第1次のまとめと第2次の課題設定が繋がっているか。